



デモンストレーション授業による研修

(特非) ムラのミライ

カトマンズ・学校を プラットフォームにしたごみ減量活動 ー子どもたちのごみへの共感から スタートする循環型社会形成活動ー

一般助成

1年目

実践

モデル校で実践的
環境教育手法の習得に
必要な研修を実施

延べ9回

モデル校合同成果発表会の
実施と普及用映像作成

1回

活動の全体目標に
対する達成度

95%

課題

ごみをめぐる問題は年々深刻さを増しているが、特に首都とその郊外には異なる地域や民族の人口が短期間に急激に流入し、地域の課題に対する合意形成が困難な状況である。

目標

環境教育授業（6～10年生）を通じ、「暮らしとごみ」といった地元の課題を生徒と家庭がともに学び、地域住民の日常的な環境保全活動に結びつくような地域ぐるみの活動がスタートする。

活動内容

モデル校（3校・約120名6～8年生）の教員（4名）に対し、デモンストレーション授業を通じて、実践的環境教育手法の習得に必要な研修を延べ9回実施。分別回収と同時にプラスチックごみを再利用したアート作品を制作。2016年12月10日にはモデル校合同での成果発表会アート作品展示発表会を同時開催した。環境教育普及教材となる映像を制作し、モデル校教員、保護者、地域住民、自治体関係者を中心に配信。



合同成果発表・
アート作品展示会

達成できなかったこと

学校ごみ調査を実践できた学校とそうでない学校に分かれた。原因は研修時間の不足にあり、ごみ計量に関して、追加で研修をする必要があった（延べ9回⇒延べ12回）。

今後の展望

教員と保護者を中心とした地域の住民活動（ごみ減量）と環境教育普及教材映像の地元住民への共有の継続。

成果と工夫した ポイント



成果

学校から発信するかたちで、教員や保護者を中心となり、地域住民の日常的な環境保全活動が50%増加。また保護者会を中心とした住民活動（ごみ分別など）が形成され、対象地区域の分別回収が40%増加。

工夫

ごみを共通の課題として地域住民が携わるきっかけとしてのプラスチック包装ごみ再利用アート作品の制作